

IX. レジストレーションメモリーシステム



レジストレーションメモリー

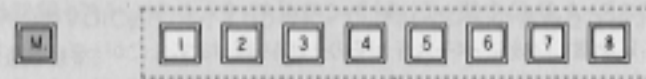
上鍵盤と下鍵盤の間にあるボタンを使えば、パネル面でセットしたレジストレーションを、すべて一度にメモリーでき、メモリーしたレジストレーションは、ボタンひとつでいつでも取り出すことができます。音色や効果、リズムのセッティングのほか、ボリュームスライダーの位置もそのままパネル面に再現されますから、レジストレーションの変更を目でも確認できます。それでは、実際に操作してみましょう。

〔レジストレーションをメモリーする操作〕

①メモリーしたいレジストレーションをセットします。

メモリーできるセッティングは、音色、効果、リズム、演奏補助機能のすべてのボタンとスライダーです。リズムのテンポもメモリーすることができます。

②M.(メモリー)のボタンを押しながら、1～8のボタンのいずれかをひとつ押しします。



M.を押しながら、いずれかひとつをONする。

押した番号のボタンが点滅し、①でセットしたレジストレーションがメモリーされたことを示します。以上の操作をしておけば、パネル面のレジストレーションをどのように変更しても、そのボタンを押すだけで、メモリーしたレジストレーションが取り出せます。他の7つのボタンにも、それぞれお気に入りのレジストレーションをメモリーしてみましょう。

★コンビネーションのメモリーボタン、ビブラートのプレイヤーボタン、リズムのプログラムボタンをセットすれば、そのときそれらに記憶させている情報をメモリーすることができます。

★リズムのスタートボタン、ブレークボタン、マスターボリューム、トレモロスピード、エクスプレッションペダルの位置とその表示、レジストレーションパックのボタン、ピッチコントロール、パネルライトのスイッチなどは、メモリーの操作とは無関係です。

★いったんメモリーしたレジストレーションの情報は、電源を切っても消えることはありません。また、同じボタンに新しいレジストレーションをメモリーすると、それまでメモリーしていた情報は自動的に消えます。

〔メモリーしたレジストレーションを取り出す操作〕

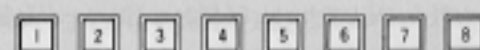
①演奏する曲に使うレジストレーションを1～8のボタンにメモリーしておきます。

ボタンの番号が小さい方から、取り出す順序どおりにメモリーしておくと便利です。

②曲の最初に使うレジストレーションを、1～8のボタンのひとつを押して取り出します。

押したボタンが、点灯し、パネル面では、メモリーしておいたセレクトボタンが自動的に入り、スライダーもメモリーしておいた位置に移動します。1～8のボタンを使わず、パネル面でレジストレーションをセットしてもかまいません。

③演奏を始め、レジストレーションを変更したいところになったら、それをメモリーしておいたボタンを押します。



ボタンを押すたびに、パネル面のボタンとスライダーの位置が変わり、メモリーしておいたレジストレーションが素早く取り出せます。

★1～8のボタンを押して、メモリーしておいたレジストレーションを取り出しているときでも、パネル面を操作して、レジストレーションを変更することができます。その場合、1～8のボタンのランプは消えますが、メモリーされている情報は消えません。したがって、再度同じボタンを押すと、パネル面で変更した部分はもとにもどります。



■CANCEL (キャンセル)



このボタンには、パネル面で最後にセットしたレジストレーション(1~8のボタンで変更したレジストレーションは除く)が、つねにメモリーされています。したがって、1~8のボタンを押してレジストレーションを変更した後、このボタンを押せば、パネル面でセットしたレジストレーションに、いつでももどすことができます。演奏を始めるときに、曲の中でよく使うレジストレーションをパネル面でセットしておき、キャンセルボタンで何度も取り出すという使い方も可能です。

ただし、1~8のボタンを入れているときに、パネル面でレジストレーションを変更すると、それがキャンセルボタンにメモリーされます。したがってこの場合、キャンセルボタンを押して得られるレジストレーションは、パネル面で変更した後のものになります。

■DISABLE (ディスエーブル)



メモリーしたレジストレーションを取り出すとき、このボタンを入れておくと、リズムセクションと演奏補助機能のセッティングが固定されます。したがって、演奏中に1~8のボタン、およびキャンセルボタンを使ってレジストレーションを変更しても、リズム、オートアルペジオ、リズムコード、オートベース/コードのセッティングは同じ状態に保たれます。音色と効果のセッティングのみ変更したいときにお使いください。

■SLIDER DRIVE (スライダー ドライブ)



SLIDER DRIVE

メモリーしたレジストレーションを取り出すとき、このボタンを入れておくと、すべてのスライダーの位置が固定されます。したがって、演奏中に1~8のボタン、およびキャンセルボタンを使ってレジストレーションを変更しても、ボリュームなどのスライダーは移動しませんが、音量や効果の深さはメモリーしておいたものが得られます。スライダーの作動音が気になるときにお使いください。

■電源スイッチを切ったときの自動メモリー

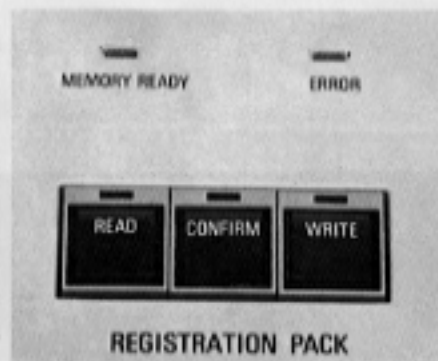
電源スイッチを切ると、そのときパネル面でセットしているレジストレーションが自動的にメモリーされます。したがって、電源を切っている間にパネル面のセッティングを変更しても、再び電源スイッチを入れたとき、電源を切ったときのセッティングにもどります。

■RESET (リセット)



パネル面でセットしているレジストレーションを、すべて一度にキャンセルするボタンです。このボタンを押すと、各音色群やリズムなどのセレクトボタンは左上のものが入り、各音色群のプリセットビブラート、タッチトーンのボタンがONになり、アンサンブルセクションは、上・下鍵盤のオーケストラのボタンがONになります。また、ボリュームなどのスライダーはすべてMIN (最小) かノーマルの位置にセットされます。メモリーするレジストレーションをパネル面でセッティングするとき、最初にこのボタンを押せば、レジストレーションの変更もれが防げます。また、リセットボタンは、レジストレーションメモリーとは関係なく、いつでも使うことができます。なお、このボタンを入れることで、1~8のボタンにメモリーした情報が消えることはありません。

★非常にまれなことでありますが、落雷などにより異常電圧が流れ、エレクトロニクスにメモリーされている情報が変わったり、パネル面が正常に機能しなくなることがあります。その場合は、いったん電源スイッチを切り、RESET (リセット) ボタンを押しながら、電源スイッチを入れてください。

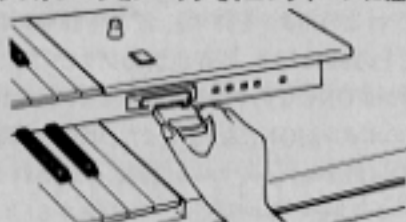


REGISTRATION PACK・レジストレーションパック

1～8のボタンにメモリーしたレジストレーションの情報は、そのままレジストレーションパックに移し、ストックしておくことができます。また、レジストレーションパックに移した情報は、エレクトーンにメモリーさせることができ、いつでも自由に取りだせます。なお、付属のレジストレーションパックには、8つのレジストレーションがあらかじめメモリーされています。まず最初に、この情報をエレクトーンに移してみましょう。

〔レジストレーションパックの情報をエレクトーンにメモリーする操作〕

- ①付属のレジストレーションパックを、エレクトーンに差し込みます。



図のように、ラベルの貼ってある面を上にして、しっかりと差し込んでください。すると、MEMORY READY(メモリーレディ)のインジケータランプが点灯し、メモリーできる状態になったことを示します。

- ②CONFIRM(コンファーム)のボタンを押しながら、READ(リード)のボタンを押します。



すると、READ(リード)ボタンのランプが点滅し、エレクトーンに情報がメモリーされたことを示します。この操作をした後は、レジストレーションパックを引き抜いてもかまいません。

- ③レジストレーションを1～8のボタンで取りだします。

1～8のボタンを押すことで、パックにメモリーされていたレジストレーションがパネル面で得られます。

★パックを正しく差し込まなかった場合は、ERROR(エラー)のインジケータランプが点滅します。そのときは、もう一度入れ直してください。

★以上の操作をすることで、パックにメモリーされている情報が消えてしまうことはありません。ただし、それまで1～8のボタンにメモリーしていた情報は消えてしまいます。

〔エレクトーンの情報をレジストレーションパックにメモリーする操作〕

- ①まず、1～8のボタンにパネル面のレジストレーションをメモリーします。(26ページを参照してください。)

- ②レジストレーションパックを、エレクトーンに差し込みます。

MEMORY READY(メモリーレディ)のインジケータランプが点灯することを確認してください。

- ③CONFIRM(コンファーム)のボタンを押しながら、WRITE(ライト)のボタンを押します。



すると、WRITE(ライト)ボタンのランプが点滅し、レジストレーションパックに情報がメモリーされたことを示します。

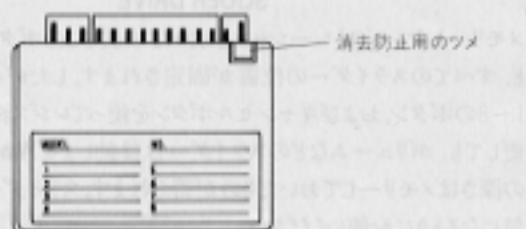
- ④レジストレーションパックを引き抜きます。

このようにして、必要なレジストレーションをパックに移し、ストックしておくことができます。パックにメモリーした情報は、READ(リード)ボタンを使うことで、いつでもエレクトーンに移すことができます。

★以上の操作で、エレクトーンにメモリーされている情報が消えてしまうことはありません。ただし、それまでレジストレーションパックにメモリーされていた情報は消えてしまいます。

★数多くのレジストレーションをストックしておきたい場合は、別売りのレジストレーションパックをお求めください。オリジナルのライブラリーがつくれ、コンサートなどで大変便利です。

★レジストレーションパックにメモリーした情報を消したくない場合は、消去防止用のツメを折ってください。このツメを折っておけば、たとえWRITE(ライト)のボタンを使ってメモリーの操作をしても、パックの情報は保護されますから、誤って消してしまうミスが防げます。



X. その他のコントロール・端子



EXPRESSION PEDAL

エクスプレッション ペダル 表示

エクスプレッションペダルは、演奏中に音の強弱の変化をつけるためのペダルで、踏み込むほど音量が大きくなります。

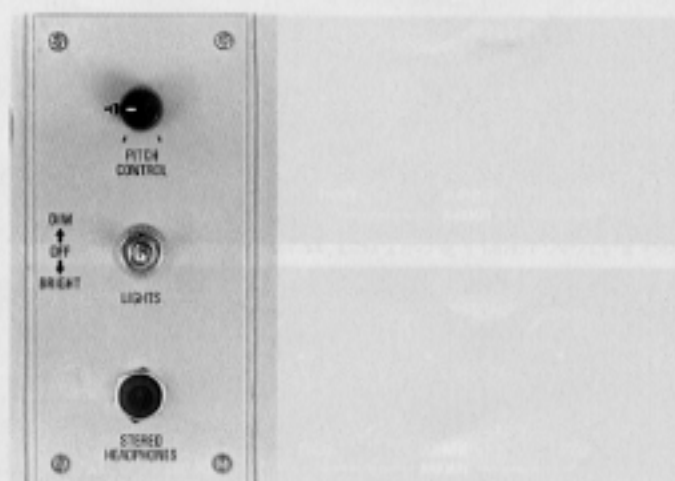
このエクスプレッションペダルがどの程度踏み込まれているかは、上鍵盤と下鍵盤の間にあるディスプレイに表示させることができます。MIN(最小)からMAX(最大)までの10ポジションでランプが点灯しますから、音量を目で確かめることができ、ステージでのオープニング時などに便利です。ON(オン)のボタンを入れることで表示するようになり、BRIGHT(ブライト)のボタンを入れると、さらにランプが明るくなります。

MASTER VOLUME(マスターボリューム)

エレクトーン全体の音量をコントロールするつまみで、右に回すほど音量が大きくなります。

POWER(パワースイッチ)

エレクトーンの電源スイッチです。ボタンを入れると、ランプが点灯します。



棚板下のコントロール・端子

■LIGHTS(パネルライト スイッチ)

エレクトーンのパネル面と鍵盤を照らすパネルライトのスイッチです。中央がOFF(オフ)の状態、手前のBRIGHT(ブライト)側に入れると、明るい照明が得られ、奥のDIM(ディム)の側に入れると、やや暗い照明が得られます。ステージ演奏などにご活用ください。

■PITCH CONTROL(ピッチ コントロール)

エレクトーン全体の音程が、微妙にコントロールできるつまみです。写真の位置が標準セット位置で、右に回すほど音程が高くなります。

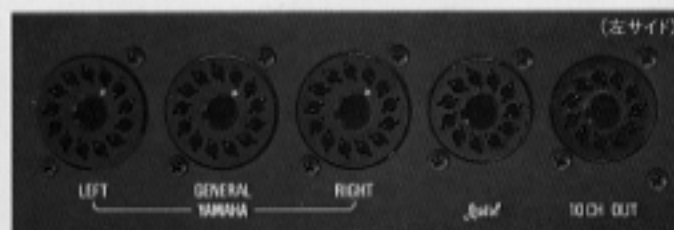
■STEREO HEADPHONES(ステレオヘッドホン端子)

ステレオヘッドホンを接続する端子です。ヘッドホンを使った場合でもトーンキャビネットからは音がでますから、モニターとしても使用できます。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンを使用するのもひとつの方法です。お互いに心を配り、快適な生活環境を守りましょう。

トーンキャビネットとの接続方法



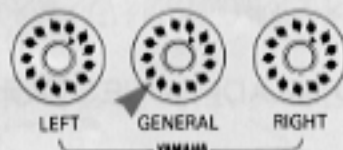
トーンキャビネットコネクター

FX-1はトーンキャビネットを接続して使用しますが、接続用のコネクターはFX-1の両サイド下にあり、演奏するホールの大きさや使用目的に応じて、いろいろな接続方法がとれます。

■YAMAHA(ヤマハトーンキャビネットコネクター)

FX-1専用のTX-1など、ヤマハのトーンキャビネットを接続する13ピンのコネクターです。両サイドに3つずつあり、どちら側のコネクターを使用してもかまいません。

トーンキャビネット1台の場合：GENERAL(ジェネラル)のコネクターに接続します。



トーンキャビネット2台の場合：LEFT(レフト)とRIGHT(ライト)のコネクターに接続する使い方と、2台ともGENERAL(ジェネラル)のコネクターに接続する使い方があります。レフトとライトに接続した場合は、各音色群の音が効果的に振り分けられて出力されます。



トーンキャビネット3台以上の場合：使用するホールの音響効果などを考慮に入れて、両サイドにある6つのコネクターを使い分けてください。

■LESLIE(レスリースピーカー コネクター)

レスリースピーカーを接続する場合は、左サイドにある11ピンのLESLIE(レスリー)のコネクターをお使いください。

■10CH OUT(10チャンネルアウトコネクター)

このコネクターを使うと、各音色群の音が10のチャンネルに振り分けられて出力され、それぞれ分離して取り出すことができます。大ホールでPA装置を使う場合には、このコネクターとミキサーを接続してください。また、レコーディングのときなどにも、このコネクターを使います。

■EXP. IN(エクスプレッション連動入力端子)

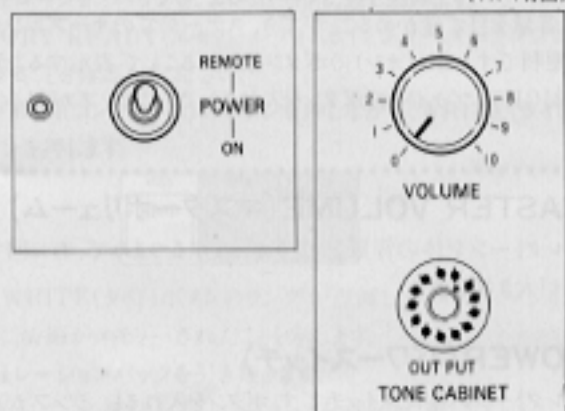
シンセサイザーやリズムボックスなどと接続するときに使う端子です。接続した機器の音量は、エレクトーンのエクスプレッションペダルでコントロールできます。



ヤマハトーンキャビネット TX-1

FAMシステムのハイクオリティな音を、より忠実にバランスよく再生するため、FX-1と同時に開発されたのがトーンキャビネットTX-1です。コンパクトでありながら総合出力310Wのハイパワーを持ち、3チャンネル3ウェイシステムの採用により、重低音から高音まで幅広くクリアに再生します。特にメインアンプ、スピーカーとも3チャンネルですから、1台でも立体的で豊かな音のひろがりが見られます。

(TX-1背面)



●POWER(リモート切替スイッチ)

このスイッチをREMOTE(リモート)側に入れると、接続したFX-1の電源スイッチによってTX-1の電源も同時にON/OFFすることができます。ON(オン)側に入れると、FX-1の電源スイッチとは関係なく電源が入ります。

●VOLUME(ボリューム)

TX-1だけの音量をコントロールするつまみです。

●TONE CABINET(トーンキャビネットコネクター)

トーンキャビネットを接続するコネクターです。これを使えば何台でもトーンキャビネットを増設することができます。

TX-1の主な仕様

- 入力
13ピンコネクター(10mケーブル付き)
- アンプ出力
センター：160W+70W、レフト：70W、ライト：70W
- スピーカー
センター：ウーファ38cm×1、スコーカー20cm×1、ツイーター5cm×2
レフト：スコーカー20cm×1、ツイーター5cm×2
ライト：スコーカー20cm×1、ツイーター5cm×2
- 消費電力
225W(AC100V・50/60Hz)
- 寸法・重量
開口82.8cm、奥行60.5cm、高さ89.9cm、重量130kg

取扱上の注意

末永く安全にお使いいただくために

設置場所について

- 直射日光はさけてください。
- 暖房器具の近くには設置しないでください。
- 湿気やホコリの多い場所や、温度の特に低い場所もさけてください。
- 振動の少ない、平らな床面に設置してください。
- 壁から10cm以上離すようにしてください。壁が直接振動するのを防ぎます。

外装・鍵盤のお手入れは

- 外装や鍵盤のお手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。
- よごれがひどい場合は、水を少しふくませ、かたく絞った布で拭きとってください。
- シンナーやベンジンなどの溶剤は、鍵盤や外装をいためますので、絶対に使用しないでください。

電源コードを大切に

- エレクトーン本体や椅子などで電源コードを踏みつけたり、足に引っかけていたりしないように注意してください。
- コンセントから抜くときは、電源コードを引っばらないでください。
- 電源コードの磨ぎ足しは危険ですからさけてください。

無理な力を加えないでください

- ボタンやつまみ、スイッチ類に無理な力を加えることはさけてください。
- ペダル鍵盤や椅子、譜面板などの取扱いでは、底をつけないように注意してください。

セットの移動時には

- セットを移動する場合には、接続コードのショートや断線を防ぐため、他の機器との接続コードを取りはずしてから動かしてください。
- ペダル鍵盤は取りはずしてから移動してください。

他の電気機器への影響について

このエレクトーンはデジタル回路を多用しているため、ごく近くでラジオやテレビなどの電気機器を同時に使用すると、雑音や誤動作の原因になることがあります。他の電気機器から充分離してご使用ください。

落雷に対する注意を

落雷などのおそれがあるときは、早めに電源コードをコンセントから抜いてください。

万一異状があったら

使用中に音がなくなったり、異常なおいや煙がでた場合は、ただちに電源プラグをコンセントから抜き、お求めの販売店もしくは電音サービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。

本書と保証書の保管について

本書をお読みになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

レジストレーションパックの保管

レジストレーションパックの内部には、LSIなどの電子部品が入っていますので、その取扱いや保管では、次の点に注意してください。

- 落としたり、強い力を加えたりしないでください。
- 差込口の金属部を、かたい物などでこすったりして、底をつけないでください。
- 内部に水やホコリの入らないように、ご注意ください。
- 保管する場合は、適度な温度や湿度にご注意ください。また、必ず専用のケースに入れて保管してください。

★レジストレーションパックにメモリーされた情報は、内蔵の電池によってバックアップされていますが、長年使用している間に、この電池は消耗されます。電池が消耗してしまうと、メモリーした情報は消え、新しい記憶操作もできなくなります。このような場合は、ご購入になった販売店、または電音サービスセンター、サービスステーションまでご相談ください。(電池の寿命は、通常の使用で約5年です。)

レジストレーションパック(別売り)

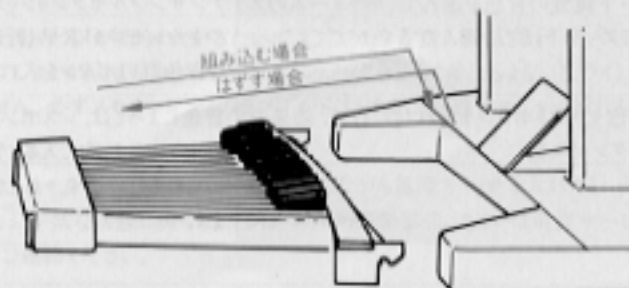
レジストレーションパックは、付属のもの以外に、別売りオプションとしても用意しています。数個のパックにレジストレーションをメモリーし、ストックしておけば、コンサートなどで幅広くご利用いただけます。

ペダル鍵盤、譜面板の取扱い

■ペダル鍵盤の取りはずしと取り付け

エレクトーンFX-1のペダル鍵盤はユニットになっており、運搬などに際して取りはずすことができます。取りはずし、または取り付けのときは、次の点に注意してください。

- かならず2人で持つようにし、決して無理な力をかけないようにしてください。
- 取りはずす場合は、最初に少し持ちあげてから引きだします。
- 取りつける場合は、そのまま押し込むのではなく、上に少し持ちあげてからはめこみます。



■譜面板の収納と取り付け

FX-1の譜面板は、椅子の中に収納されています。本体に取りつけるときは、椅子の前部にあるネジをゆるめて椅子を開け、落としたりしないように注意して取りだしてください。なお、譜面板の下に収納されている金具は、譜面板の上部に取りつけるサポートです。大きな譜面を使用するときに取りつけてください。

故障と誤りやすい現象

次のような現象は故障ではありませんのでご注意ください。このような現象でサービスを依頼されますと、保証期間中であっても実費料金を申し受けますので、ご了承ください。

現 象	原 因 と 処 置
時々、ガリッとかポツンという雑音が入る。	近くで電気器具の電源をON/OFFしたり、故障したネオンサインや電気ドリルなどを使用している場合は、雑音の入ることがあります。原因と思われる機器から、なるべく離れたコンセントを使ってください。また、原因不明の場合は、お求めの楽器店あるいは電音サービスセンター、サービスステーションまでご相談ください。
ラジオやテレビ、無線などの電波が入る。	近くに大電力の放送局やアマチュアの無線局があるためです。どうしても気になる場合は、お求めの楽器店あるいは電音サービスセンター、サービスステーションまでご相談ください。
ラジオやテレビなどに雑音の入ることがある。	エレクトーンのすぐ近くにラジオやテレビを置いてあると雑音の入ることがあります。なるべく離してご使用ください。
音が周囲の物を共鳴させてビビる。	エレクトーンの音は持続音が多いため、周囲の戸棚や窓ガラスなどの器物を共鳴させることがあります。気になる場合は、共鳴物を取り除くか、音量を小さくしてください。
選んだ音色によって、鍵盤位置による音量のばらつきがある。	一般に電子楽器では、音色を変えるという本質的な要素をもつため、音色による各鍵盤の音量のばらつきをなくすることは非常に困難です。エレクトーンでは、どの音色でも演奏上問題のないように設計、調整されています。また、音量や音色は、エレクトーンの設置場所の状態や聞く位置などによって大きく異なることがあります。どうしても気になる場合は、お求めの楽器店あるいは電音サービスセンター、サービスステーションまでご相談ください。
ペダル鍵盤ではピッチが高く、上・下鍵盤の高音部では低く感じる。	特にピアノと比較した場合に感じますが、ピアノでは倍音構成が複雑なため、高音、低音の調律は実音での調律ができず、倍音を聞いて調律しています。エレクトーンの場合は逆に実音で調律していますから、ピアノとエレクトーンでは本質的に違うわけです。
割れるような感じや、ノイズが入るような感じのする音色がある。	主に管楽器系の音色で感じるがありますが、これは実際の楽器音の特徴を再現するため、特に組み込まれた音色効果です。ブラスの振動やブレスノイズなど、よりリアルな特徴をそえた楽器音が得られます。
ペダル鍵盤を同時に2音おさえても1音しかでない。また、ソロ音色、アップパー/ロワーカスタムボイス音色は、同時に2音以上おさえても1音しかでない。	演奏上、設計上の理由から、ペダル鍵盤およびソロ音色、アップパー/ロワーカスタムボイス音色では、それぞれ同時に1音しか発音しないようになっています。同時に2音以上おさえた場合は、高音が優先されます。また、ソロ音色、アップパー/ロワーカスタムボイス音色では、他の音色と組み合わせずに各鍵盤で単独に使った場合は、後でおさえた1音が優先されます。
上鍵盤または下鍵盤で同時に13音以上おさえると、でない音がある。	上鍵盤と下鍵盤の同時発音数は、それぞれ最高12音に設計されています。
電源スイッチを入れると、スライダーが移動する。	このエレクトーンでは、電源スイッチを切ると、そのときパネル面でセットしているレジストレーションを自動的にメモリーするようになっています。したがって、電源を切っている間にボタンのセッティングやスライダーの位置を変更しても、再び電源スイッチを入れると変更前のレジストレーションに戻ります。(27ページ参照)
上・下鍵盤の音色を選んで、ボリュームのスライダーを下げて、選んだ音色がでてこない。	アンサンブルセクションのなかで必要なボタンが入っていないためです。上・下鍵盤では音色の組み合わせやキャンセルが素早く行えるよう、アンサンブルのボタンで集中的にコントロールするようになっています。必要な音色群のボタンを入れてください。(6ページ参照)
音色セレクトボタンを入れただけで、効果のボタンが入る。	音色によっては、レスポンスファースト、ティンバーバリエーション、シンフォニックなどのボタンが、音色を選ぶと同時に自動的に入るようになっています。これは、それらの効果をかけたほうが、その音色にふさわしい響きが得られるためです。あえて効果をかけたくない場合は、ONされている効果のボタンを押すとキャンセルされます。

現 象	原 因 と 処 置
鍵盤をレガートに弾いたとき、アタック音またはディレイビブラートが最初の音にしかかからない。	上・下鍵盤のコンビネーションのアタック音、およびオーケストラ音色にかかるディレイビブラートは、鍵盤をレガートに弾いた場合、最初の音に対してだけかかるように設計されています。
セットとレバーのボタンを押しても、ビブラートのメモリーができない。(プレイヤーのボタンが点滅しない)	ビブラートのかかり方を変更したい音色のボタンを押さなかったためです。レバーのボタンを押した後、必ず音色セレクトボタンを押して、インジケーターランプが点灯したことを確認してからメモリーの操作を行ってください。(17ページ参照)
プリセットビブラートのボタンを入れても、ビブラートがかからない。	音色によっては、プリセットビブラートのボタンを入れても、ほんのわずかしきビブラートのかからないものがあります。これは、ビブラートをあまりかけない方が、その音色にふさわしいためです。また、ビブラートのかかり方をメモリーせずに、プレイヤーのボタンを入れると、ビブラートはかからなくなります。(16ページ参照)
タッチトーンのボタンを入れて鍵盤を強くおさえても音量・音色があまり変化しない。	イニシャルタッチ、アフタータッチによってコントロールできる音量・音色の変化の度合は、それぞれの音色にふさわしいようにプリセットされています。したがって、オーケストラ音色におけるイニシャルタッチのように、音色によってはあまり変化しないものがあります。
ソロ音色をカブラー機能によって上鍵盤に移しているとき、低音域でソロ音色の音がでない。	ソロ音色は、3オクターブ(c ₁ ~c ₃)の音域でのみ発音されます。したがって、上鍵盤に移した場合でも中央Cより下の音域では発音しません。(14ページ参照)
デジタルディスプレイのテンポ表示の数字が細かく変わらない。	操作性を高めるため、テンポつまみでセットするリズムのテンポは、実際の演奏に支障のない範囲で、あらかじめ決められたものになっています。
パネル面でセットしたリズムパターンとは、違うリズムがでてくる。	リズムシーケンスプログラマーのプログラムボタンが入っているためです。プログラムボタンが入っていると、パネル面でセットしたリズムは、メモリーさせたリズムに自動的に変更されます。(22ページ参照)
下鍵盤、あるいはペダル鍵盤が鳴りっぱなしになる。	リズムがスタートしているとき、オートベース/コードセクションのローワーメモリーを入れると、下鍵盤から指を離しても音が鳴り続けます。また、ペダルメモリーを入れると、ペダル鍵盤から足を離しても音が鳴り続けます。(25ページ参照)
レジストレーションメモリーのキャンセルボタンを押しても、最初のレジストレーションに戻らない。	キャンセルボタンでは、パネル面で最後にセットしたレジストレーションが得られるようになっています。したがって、1~8のボタンを入れているとき、パネル面でレジストレーションを少しでも変更すると、それがキャンセルボタンにメモリーされます。(27ページ参照)
レジストレーションメモリーの1~8のボタンを押しても、リズムやオート機能のセッティングが変わらない。または、すべてのスライダーが移動しない。	ディスプレイ、またはスライダードライブのボタンが入っているためです。すべてのレジストレーションを切りかえない場合は、ディスプレイ、スライダードライブのボタンを切ってください。(27ページ参照)
ライトとコンファームのボタンを押しても、レジストレーションバックにメモリーできない。(ライトのランプが点滅しない)	レジストレーションバックの消去防止用のツメが折れているためです。このツメが折れていると、レジストレーションバックにメモリーする操作はできません。また、レジストレーションバックを正しく差し込まないと、ライトおよびリードのメモリー操作はできません。必ずメモリーレディのランプが点灯することを確かめてから操作してください。(28ページ参照)
パネル面のボタンなどが正常に動かない。(ボタンのランプがすべて消えてしまうなど。)または、メモリーしていた情報が変わってしまう。	このような場合には、いったん電源スイッチを切り、リセットのボタンを押しながら電源スイッチを入ると、正常に機能するようになります。それでもなお正常な状態に戻らないときは、お求めの楽器店、あるいは電音サービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。

サービスと保証

保証

エレクトーンの場合は、保証書の裏面に記載の規定によりご購入から満10年です。ただし、現金、ローン、月賦などによる区別は一切いたしません。また保証は日本国内のみ有効いたします。

保証書

エレクトーン納入の際、保証書もお渡しいたしますので大切に保管くださるようお願いいたします。

また、納入調整サービスの際には納入調整者が保証書内に必要事項記入の上発行いたしますので記載事項をご確認ください。



保証書はよくお読みください。

保証書は大切にしましょう！

保証書は弊社がエレクトーンをご購入いただいたお客さまにご購入の日から向う10年間の無償サービスをお約束申し上げるものですが、万一紛失なさいますと保証期間中であっても実費を頂戴させていただくことになります。万一の場合に備えて、いつでもご提示いただけますように充分ご配慮の上で保管してください。(エレクトーンの椅子の中にある譜面板の収納場所をご利用ください)また、保証期間が切れましてもお捨てにならないでください。後々のサービスに際しての機種の特典やサービス依頼店の確認など便利にご利用いただけます。

納入調整サービス

エレクトーンをお納めさせていただきまして、販売店からエレクトーンのご説明がたがたお納めしたエレクトーンの調子を最良状態にするよう点検調整にお伺いいたします。その際、納入調整サービスカードを提示いたしますので、カード裏面の点検調整事項について、ご確認・ご捺印のうえ、カードを納入調整者にお渡しください。

お求めのエレクトーンについてご不明の点およびお聞きになりたい点がございましたらその節にお申しつけくださるようお願い申し上げます。

保証期間中のサービス

1. 保証期間中に万一故障が発生した場合にはヤマハ特約楽器店、小売楽器店にご連絡いただきますと販売店またはヤマハのエレクトーン技術者が調整修理にお伺いします。

2. 保証書は、サービスにお伺いしたときに今後の製品改良の貴重な資料とするため技術者がお預りさせていただきます。お預りした保証書は、弊社支店に送られ、記録した後に各支店から直接お客さまにご返送申し上げます。この間、約1週間～10日間程度を要しますがご心配なくお待ちくださるようお願い申し上げます。

3. 遠方に移転される場合は、事前にお買上げ楽器店あるいは弊社支店にご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介申し上げますと同時に、引続き保証期間中のサービスを責任をもって行うよう手続きいたします。

保証期間後のサービス

満10年の保証期間が切れますとサービスは有料となりますが、引続き責任をもってサービスをさせていただきます。また、修理可能期間は10年となっております。なお、補修用性能部品(製品本来の機能を維持する為に必要な部品)の最低保有期間は8年となっております。保証期間以後の移転の場合も保証期間中と同様にご連絡いただきましたら、移転先の楽器店をご紹介いたします。

サービスのご依頼

●ご依頼の前に

1. コンセントに電気が来ているかどうか、電気製品を接続してお確かめください。
2. 電話でのご依頼の際、再度、故障かどうかの確認をさせていただく場合がありますので、ぜひご協力をお願いします。
(32～33ページの「故障と誤りやすい現象」を参照)

●エレクトーンの様子詳しくお知らせください。

1. できれば実際にエレクトーンをお弾きになっていらっしゃる方に様子をお聞かせ願えば、あらかじめ用意する部品などの見当が付き、スムーズにいきます。

時々調子のおかしくなるような場合には、お手数でもその状態をできるだけ詳しくお知らせください。たとえば、●夜だけ音が小さい●ある時間だけ雑音が出る●エレクトーンの音をださなくても、スイッチを入れるだけで雑音が出るなどの場合です。

3. エレクトーンの種類など、サービスご依頼のエレクトーンに関する詳細は、保証書をご覧になってお知らせください。使用部品が製造時期やモデルによって異なる事もありますので、早く確実にサービスさせていただくためにぜひお問い合わせいたします。

●これだけはお知らせください。

ご住所、お名前、ご連絡先、ご購入店、お買上げ年月日、機種名(モデル名)……保証書に記載されております。
症状……なるべく具体的に。

サービスのお約束について

1. お仕事の関係で、昼間ご不在のお客様や留守がちなお客様は、できるだけお伺いする日時を事前にお約束させていただきます。
2. 万一お約束した日時にご都合の悪い時には、できるだけ早くサービスを依頼されたお店にご連絡ください。
3. お店にサービス依頼されたにもかかわらず、日時が経過してもなおサービス員がお伺いしない場合は、お手数でも右記の電音サービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。責任をもって処理させていただきます。

ヤマハ電気音響製品サービス網

全国のヤマハ・特約楽器店と下記電音サービスセンター、サービスステーションが責任をもってアフターサービスを行っております。

〔お客様相談窓口〕

東京電音サービスセンター

☎03(255)2241

東京電音サービスステーション

〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4 駿名館ビル4F

東京ステレオサービスステーション

☎03(255)2241

横浜電音サービスステーション

〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4 駿名館ビル4F

新潟電音サービスステーション

☎045(212)2223

大阪電音サービスセンター

〒231 横浜市中区本町6-61-1

大坂電音サービスステーション

☎0252(43)4321

名古屋電音サービスセンター

〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F

福岡電音サービスセンター

☎06(877)5262

大坂電音サービスステーション

〒565 吹田市新野原下1-16 千里丘センター内

大坂ステレオサービスステーション

☎06(877)5262

四国電音サービスステーション

〒565 吹田市新野原下1-16 千里丘センター内

名古屋電音サービスセンター

☎06(877)5262

大坂電音サービスステーション

〒565 吹田市新野原下1-16 千里丘センター内

大坂ステレオサービスステーション

☎06(877)5262

四国電音サービスステーション

〒565 吹田市新野原下1-16 千里丘センター内

名古屋電音サービスセンター

☎06(877)5262

大坂電音サービスステーション

〒565 吹田市新野原下1-16 千里丘センター内

大坂ステレオサービスステーション

☎06(877)5262

四国電音サービスステーション

〒565 吹田市新野原下1-16 千里丘センター内

名古屋電音サービスセンター

☎06(877)5262

大坂電音サービスステーション

〒565 吹田市新野原下1-16 千里丘センター内

大坂ステレオサービスステーション

☎06(877)5262

四国電音サービスステーション

〒565 吹田市新野原下1-16 千里丘センター内

名古屋電音サービスセンター

☎06(877)5262

大坂電音サービスステーション

〒565 吹田市新野原下1-16 千里丘センター内

大坂ステレオサービスステーション

☎06(877)5262

四国電音サービスステーション

〒565 吹田市新野原下1-16 千里丘センター内

名古屋電音サービスセンター

☎06(877)5262

大坂電音サービスステーション

〒565 吹田市新野原下1-16 千里丘センター内

大坂ステレオサービスステーション

☎06(877)5262

四国電音サービスステーション

〒565 吹田市新野原下1-16 千里丘センター内

名古屋電音サービスセンター

☎06(877)5262

大坂電音サービスステーション

〒565 吹田市新野原下1-16 千里丘センター内

大坂ステレオサービスステーション

☎06(877)5262

四国電音サービスステーション

〒565 吹田市新野原下1-16 千里丘センター内

名古屋電音サービスセンター

☎06(877)5262

大坂電音サービスステーション

〒565 吹田市新野原下1-16 千里丘センター内

大坂ステレオサービスステーション

☎06(877)5262

四国電音サービスステーション

〒565 吹田市新野原下1-16 千里丘センター内

名古屋電音サービスセンター

☎06(877)5262

大坂電音サービスステーション

〒565 吹田市新野原下1-16 千里丘センター内

大坂ステレオサービスステーション

☎06(877)5262

四国電音サービスステーション

〒565 吹田市新野原下1-16 千里丘センター内

名古屋電音サービスセンター

☎06(877)5262

大坂電音サービスステーション

〒565 吹田市新野原下1-16 千里丘センター内

大坂ステレオサービスステーション

☎06(877)5262

四国電音サービスステーション

〒565 吹田市新野原下1-16 千里丘センター内

名古屋電音サービスセンター

☎06(877)5262

大坂電音サービスステーション

〒565 吹田市新野原下1-16 千里丘センター内

大坂ステレオサービスステーション

☎06(877)5262

四国電音サービスステーション

〒565 吹田市新野原下1-16 千里丘センター内

名古屋電音サービスセンター

☎06(877)5262

大坂電音サービスステーション

〒565 吹田市新野原下1-16 千里丘センター内

大坂ステレオサービスステーション

☎06(877)5262

四国電音サービスステーション

〒565 吹田市新野原下1-16 千里丘センター内

名古屋電音サービスセンター

☎06(877)5262

大坂電音サービスステーション

〒565 吹田市新野原下1-16 千里丘センター内

大坂ステレオサービスステーション

☎06(877)5262

四国電音サービスステーション

〒565 吹田市新野原下1-16 千里丘センター内

〔お預り修理窓口〕

東京電音サービスデポ

☎03(904)4901 〒171 東京都練馬区高野台2-3-10

大坂電音サービスデポ

☎06(877)5262 〒564 吹田市新野原下1-16 千里丘センター内

名古屋電音サービスデポ

☎052(231)7896 〒460 名古屋市中区栄1-8-7

九州電音サービスデポ

☎092(472)2134 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4

北海道電音サービスデポ

☎011(781)3621 〒065 札幌市東区本町1条9-3

仙台電音サービスデポ

☎0222(96)0249 〒983 仙台市和町5-7 仙台和倉共同配送センター3F

〔本社〕

営業技術課 電音サービスセンター

☎0534(85)1111

〒430 浜松市中区大町10-1

仕様と音域表

仕様

▶鍵盤

ソロ鍵盤：37鍵C₁～C₄(3オクターブ)

上鍵盤：61鍵C～C₄(5オクターブ)

下鍵盤：61鍵C～C₄(5オクターブ)

ペダル鍵盤：25鍵C₁～C₂(2オクターブ)

▶コンビネーション

上鍵盤：コンビネーションレバー、メモリー1・2・3、プリセット1、プリセット2、プリセット3、プリセット4

(コントロール) ボリューム

(レバー) 16・8・6 $\frac{3}{4}$ ・5 $\frac{1}{4}$ ・4・2 $\frac{3}{4}$ ・2・1 $\frac{3}{4}$ ・1 $\frac{1}{4}$ ・1、

アタック4・2 $\frac{3}{4}$ ・2、アタックレングス

下鍵盤：コンビネーションレバー、メモリー1・2・3、プリセット1、プリセット2、プリセット3、プリセット4

(コントロール) ボリューム

(レバー) 16・8・5 $\frac{1}{4}$ ・4・2 $\frac{3}{4}$ ・2・1、

アタック4・2 $\frac{3}{4}$ ・2、アタックレングス

ペダル鍵盤：コンビネーションレバー、メモリー、プリセット1、プリセット2

(コントロール) ボリューム

(レバー) 16・8・4

メモリー・エフェクト：プログラムセット、レスポンスファースト、ティンバーバリエーション

▶オーケストラ

上鍵盤：ストリングス1、ストリングス2、ストリングス3、ストリングス4、ブラス1、ブラス2、ブラス3、リード1、リード2、ボーカル、スバイス1、スバイス2

(エフェクト・コントロール) プリセットビブラート、タッチトーン、ボリューム

下鍵盤：ストリングス1、ストリングス2、ストリングス3、ブラス1、ブラス2、ブラス3、リード、ボーカル1、ボーカル2、スバイス1、スバイス2、コズミック

(エフェクト・コントロール) プリセットビブラート、タッチトーン、ボリューム

▶スペシャルプリセット

上鍵盤：ピアノ、ハーブシコード、チェレスタ、ビブラフォン、マリンバ、マンドリン、バンジョー、ジャズギター、ブラス1、ブラス2、コズミック

(エフェクト・コントロール) タッチトーン、ボリューム

下鍵盤：ピアノ、エレクトリックピアノ、ハーブシコード、ハーブ、アコースティックギター、ジャズギター、ブラス1、ブラス2、コズミック1、コズミック2、コズミック3、

(エフェクト・コントロール) タッチトーン、ボリューム

▶カスタムボイス

上・下鍵盤：フルート、オーボエ、クラリネット、サキソフォン、トランペット、トロンボーン、バイオリン、ジャズギター、ハワイアンギター、ベースギター、ボーカル、コズミック1、コズミック2、コズミック3、コズミック4

(エフェクト・コントロール) プリセットビブラート、タッチビブラート、タッチトーン、ボリューム

ペダル鍵盤：コントラバス1、コントラバス2、コントラバス3、コントラバス4、チューバ、エレクトリックベース1、エレクトリックベース2、エレクトリックベース3、ボーカル、コズミック

(コントロール) プリリアンス、ボリューム

▶ソロ

音色：ピッコロ、フルート、オーボエ、クラリネット、サキソフォン、トランペット1、トランペット2、ホルン、トロンボーン、バイオリン、チェロ、ジャズギター、ハーモニカ、ボーカル、コズミック1、コズミック2

エフェクト・コントロール：デチューン、カブラー(ソロトゥーアッパー)、トランスポジション(ダウン・ノーマル・アップ)、プリセットビブラート、タッチビブラート、タッチトーン、プリリアンス、ボリューム、スライドコントロール

▶アンサンブル

アッパーコンビネーション、アッパーオーケストラ、アッパースペシャルプリセット、アッパースペシャルボイス、ロワーコンビネーション、ロワーオーケストラ、ロワースペシャルプリセット、ロワースペシャルボイス

カブラー：ロワートゥーアッパー、アッパートゥーロワー

▶エフェクト・コントロール

サステイン：アッパースサステイン(ニー)、ロワースサステイン(ニー)、ペダルサステイン

(レングスコントロール) アッパー、ロワー、ペダル

シンフォニック：セレステ、シンフォニック、アッパースペシャルコンビネーション、アッパースペシャルオーケストラ、ロワーコンビネーション、ロワーオーケストラ

トレモロ：コーラス、トレモロ、アッパースペシャルコンビネーション、アッパースペシャルオーケストラ、ロワーコンビネーション、ロワーオーケストラ、トレモロスピード

ビブラート：セット、レバー、プレイヤー、プリセット

(レバー) タッチデプス、ディレイ、デプス、スピード

(インジケーター) ソロ、アッパースペシャルオーケストラ、アッパースペシャルロワースペシャルボイス、ロワーオーケストラ、ペダルス

ダイナミックレンジコントロール：ソロ、アッパースペシャル、ロワー、ペダルス

リバーブ、グラインド(フットスイッチ)、マニュアルバランス

▶オートリズム

リズムパターン：マーチ、ワルツ、バラード、スイング、バウンス、スローロック、8ビート1、8ビート2、タンゴ、ラテン1、ラテン2、ボサノバ、サンバ、ラテンロック、ディスコ、16ビート

リズムバリエーション：1・2・3・4

コントロール：シンクロナイズド、スタート、テンポ、ボリューム、バランス、リズムストップ(フットスイッチ)、テンポインジケーターランプ、デジタルディスプレイ

ブレークバリエーション：1・2・3、ブレーク、ブレークバリエーション(フットスイッチ)

オートバリエーション：ノーマル、4バー、8バー、16バー

リズムシーケンスプログラマー：プログラム1・2・3・4、オン、レコード、ブランク、エンド、バック、フォワード

▶オートアルペジオ

パターン：1・2・3・4・5・6・7・8

ボイス：ピアノ、ハーブシコード、ストリングス、ハーブ(コントロール) ボリューム

▶リズムコード

パターン1：ピアノ、ジャズギター、ソリッドギター

(エフェクト・コントロール) フェイザー、ボリューム

パターン2：ブラス、ジャズギター、ソリッドギター

(エフェクト・コントロール) フェイザー、ボリューム

▶オートベース/コード

ノーマル、カスタムA、B、C、ロワーメモリー、ペダルメモリー、マルチベ
ス(ノーマル・1・2・3)

▶レジストレーションメモリー

プリセットボタン：1・2・3・4・5・6・7・8

コントロール：メモリー、キャンセル、ディスエーブル、スライダードライブ

レジストレーションバック：リード、コンファーム、ライト

(インジケーター)メモリーレディ、エラー

▶メインコントロール

マスターボリューム、エクスプレッションペダル、エクスプレッションペダル
ディスプレイ(10ポジション、オン、ブライツ)、リセット、ニーレバー、フットス
イッチ、パネルライト(ディム、オフ、ブライツ)、ピッチコントロール、パワース
イッチ

▶付属端子・トーンキャビネットコネクタ

付属端子：ステレオヘッドホン、エクスプレッションイン

トーンキャビネットコネクタ：ヤマハ(レフト・ジェネラル・ライト)×2、
レスリー、10チャンネルアウト×2

▶定格電圧100V・定格消費電力280W・定格周波数50/60Hz

▶寸法・重量

本体：間口150.0cm、奥行き70.9cm、高さ111.5cm(譜面板を立てたとき
129.5cm、サポートを使ったとき139.0cm)、重量230kg、
ペダル鍵盤重量25kg

椅子：間口105.0cm、奥行き40.5cm、高さ64.0cm、重量70kg

▶外装

アイボリー・ウレタンフィニッシュ

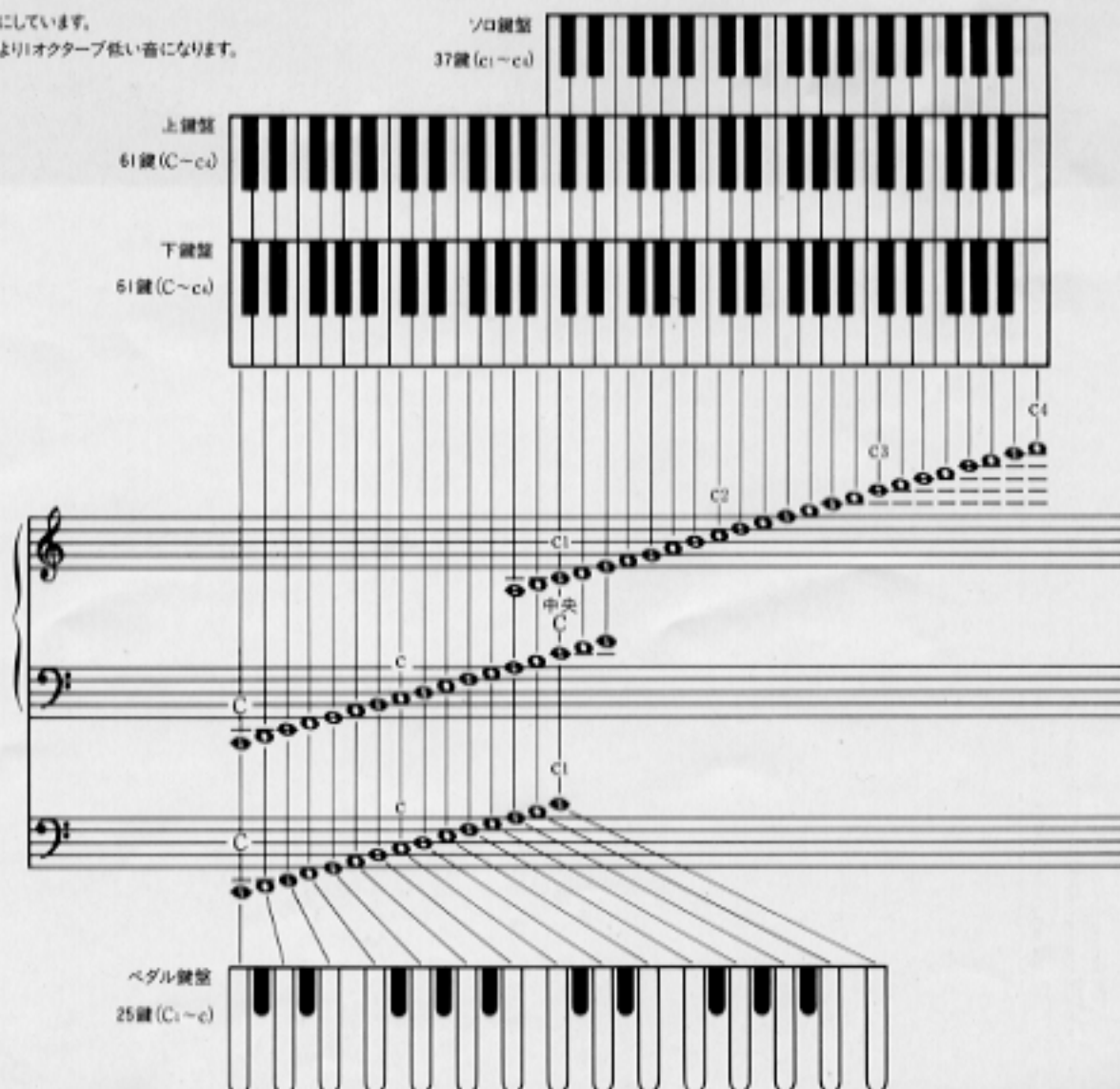
▶付属品

レジストレーションバック、譜面板、譜面板サポート

音域表

■この音域表はBの音を基準にしています。

■ペダル鍵盤の実音は、記譜より1オクターブ低い音になります。



本 社／〒430 浜松市中区町10-1

TEL. 0534(65)1111

東京支店／〒104 東京都中央区銀座7-9-18/パールビル

TEL. 03(572)3111

大阪支店／〒542 大阪市南区南船場3-12-9/心斎橋プラザビル東館

TEL. 06(251)1111

名古屋支店／〒460 名古屋市中区錦1-15-23

TEL. 052(201)5141

九州支店／〒812 福岡市博多区博多駅東2-11-4

TEL. 092(472)2151

北海道支店／〒064 札幌市中央区南十条西1-4/ヤマハセンター

TEL. 011(512)6113

仙台支店／〒980 仙台市大町2-2-10/住友生命仙台青葉通ビル

TEL. 0222(22)6141

広島支店／〒730 広島市中区基町13-13/平和生命広島ビル3F

TEL. 082(221)4122

浜松支店／〒430 浜松市緑地町321-6

TEL. 0534(54)4116

エレクトーン®は当社の登録商標です。



YAMAHA

日本楽器製造株式会社